

アレチウリ

目標

- 特定外来生物アレチウリ (*Sicyos angulatus*) の最新の分布状況を把握・情報共有し、的確な自主的防除を呼びかけることで、生態系に係る被害の防止を図るものとする。

被害内容

- 生態系等への影響：繁殖力が強く、河川敷などで群落を形成して在来植物の生育場所を奪う。
- 人間社会への影響：繁殖力が強いいため、畑地に侵入した場合、畑作物などとの競合が懸念される。



特徴

- 形態
 - ・茎：つる性で粗い毛が密生し、長さ数～十数mになる。巻きひげは3つに分かれ、他の植物などに巻き付く。
 - ・葉：互生。長さ・幅ともに10～20 cm。形は五角形で3～7回浅く裂け、付け根はハート型にくぼむ。葉の表裏には粗い毛があり、緑にはとても細かい鋸歯（ギザギザ）がある。
 - ・花：8～10月に開花。黄白色。雌雄別に直径1cm程の花序を形成する。花序は葉の脇から出る。
- 生態
 - ・一年草。
 - ・長さ約1cmの卵型の種子を1株あたり5千～2万個生産する。種子は休眠性で、土の中に長期にわたって残り、発芽の機会を待つことができる。茎の切断面から再生しやすい。



- 原産地：北アメリカ
- 侵入経緯：アメリカやカナダからの輸入大豆に種子が混入したといわれている。
- 1952年に静岡県で確認され、現在、ほぼ全国にかけて広がる。



生育場所

- 環境：主に河川、ほ場、耕作放棄地、林縁など
- 場所：



原産地域：北アメリカ

1968年：三豊市山本町に侵入した。

2022年：直島町でも確認された

2026年3月時点：河川域に侵入してからは県内本土部で急速に広がり、海浜部にまで分布が拡大してからは、櫃石島、粟島でも確認されるようになった。

侵入監視計画/発生状況

- 侵入監視重点地域：発生地の周辺地域の耕作放棄地や空き地など。→ 地域での分布域拡大の阻止を図る。
- 侵入監視地域：発生地の周辺地域の希少動植物の生育生息地。→ 生態系への影響拡大阻止を図る。

裏面をご覧ください

生活史・被害対策

防除対策

予防対策

生活史



芽生えは秋まで続くため、抜き取りは成長期間中で種子をつける前に複数回実施するのが望ましい。

被害対策

■最新の分布状況の情報の取り扱い

- ・ 県と各市町の担当者として相互連絡し、情報共有する。
- ・ 県の HP に掲載し、防除の呼びかけを行う。

防除対策

①調査

- ・ 今後、防除の実施と平行して可能な限り詳細な生育状況及び被害状況の調査を行い、効率的な防除に努める。

②採取

- ・ 防除を行う区域内に生育している当該個体について、刈り取りや根ごとの引き抜きによる駆除を実施する。
- ・ 刈り取りの場合、果実(種子)をつける前に根気よく複数回実施する。
- ・ 引き抜きの場合、根茎が残ると再生しやすいため、抜き残しのないよう、根本から丁寧に抜き取る。
- ・ 防除の対象となる生物以外の希少種等の生物の生息又は生育に支障がある期間及び区域は避けるよう配慮するものとする。

③モニタリング

- ・ 必要に応じて生育状況及び被害状況をモニタリングし、防除の効果を点検するとともに、その結果を防除の実施に適切に反映するよう努めるものとする。

④周知

- ・ 防除を実施する際には、事前に地域住民等への周知を図るものとする。

⑤処分方法

- ・ 当該個体については、放置乾燥、焼却処分等を行い適切に処分する。

■関係法令の遵守

- ・ 外来生物法で特定外来生物に指定され、栽培や移植、販売、譲渡、運搬などは全て禁止されています。

- 河川敷などで見つけた場合には、管理者、または県みどり保全課にお問い合わせください。



《連絡先》

香川県環境森林部 みどり保全課
電話：087-832-3227
E-mail：midorihozen@pref.kagawa.lg.jp

予防対策

- 早期発見
- 早期防除

- ① 防除したエリアの重点的な見回り活動
- ② 防除したエリア周辺の見回りの呼びかけ → 地域での周知を通じた協力依頼など
- ③ 果実をつける前の刈り取り対応